

第 49 次派遣海賊対処行動水上部隊帰国行事

日本船主協会・国際船員労務協会・全日本海員組合連名で派遣部隊に感謝を伝える

ソマリア沖・アデン湾の海域は、アジアとヨーロッパを結び、日本の暮らしを支える海上輸送の要衝となっている。派遣海賊対処行動水上部隊は、海賊対処法に基づき、護衛艦乗組員と海上保安官で編成され、この海域を航行する船舶を護衛するとともに、広大な海域における海賊対処をより効果的に行うため、派遣海賊対処行動航空隊を現地に派遣して海賊の監視警戒を実施している。

第 49 次派遣海賊対処行動水上部隊の護衛艦「むらさめ」の乗組員約 200 人（その他、海上保安官 8 人同乗）は令和 6 年 10 月から約半年間、海賊対処行動に従事した後、4 月 19 日、家族や関係者に迎えられ無事に帰国した。

同日、海上自衛隊横須賀地方総監部において、第 49 次派遣海賊対処行動水上部隊の帰国行事が開催され、本組合から松浦満晴組合長をはじめ 6 人が出席した。また、一般社団法人日本船主協会から明珍幸一会長、国際船員労務協会から井上登志仁会長が出席した。三団体の代表者が揃って出席したのは、今回が初めてとなる。

帰国行事では、部隊を代表して指揮官である護衛艦「むらさめ」艦長の早川正紘二等海佐から帰国報告が述べられた後、大町克士自衛隊司令官から派遣期間中の乗組員の努力と献身に敬意を表する訓示に続き、海上保安庁の彼末浩明海上保安監から任務成功に対する敬意を表すあいさつが述べられた。

帰国した派遣部隊に感謝状の贈呈

最後に、一般社団法人日本船主協会の明珍幸一会長から、日本船主協会・国際船員労務協会・全日本海員組合の三団体連名として、船員とその家族を代表し、外航海運の秩序ならびに船員の安全を守っていただいていた護衛艦「むらさめ」乗組員の活動に対し感謝の意が込められた感謝状を贈呈し、終了した。

行事終了後、過酷な任務を終えた護衛艦「むらさめ」の乗組員たちは、帰国行事を見守っていた家族や関係者に暖かく迎え入れられた。

アデン湾における商船への攻撃やソマリア海賊の事案はしばらく見られていないものの、海賊のリスクは低下しておらず、引き続き警戒が必要であるとの認識のもと、本組合は、航行する船舶と乗組員の安全を守るため、海賊対処行動の継続を強く求めるとともに、一般社団法人日本船主協会、国際船員労務協会とともに、必要な運動を展開していく。

「海員だより」